



清水ヒデキ

豪援隊隊長・

弁護士・移民コンサルタント  
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

清水の

# 豪援隊かわら版

## 〈今月の早見情報〉

その1. オーストラリア労働党のクーデター再び。ラッド前首相が、ギラード党首に代わって労働党党首に。ラッド首相として、労働党は選挙戦を戦うことになりました。党内人気がなくとも、国民人気のあるラッド首相に労働党の最後の望みを託すようです。

その2. 労働党のドタバタで最後までどうなるか分からなかった457ビザ改正でしたが、ぎりぎり改正案を政府が通しました。わずか、2票の違いだったそうです。労働党政権からすると、今回の改正を今年後半に控える選挙の票取り作戦の一つにという狙いがあるのでしょうか、業界には不人気のこの改正がどう判断されるのでしょうか。

その3. 457ビザ改正案、無所属派議員の強い抵抗にあい、なかなかすんなりと通りませんでした。457ビザシステムの悪用を主張する政府ですが、それもごくわずかな割合で、現行のシステムでも十分な機能を果たしているというのが反対をしている無所属議員の意見が真っ向から対立する図式。この図式イコール連立政権の瓦解も意味しているのでは。

## 〈今月の視点〉 3度目の正直と3年目の裏切り

6月のオーストラリアは正に劇場型政治を地で行くような、劇的な月となりました。ご存知のとおり、ラッド前首相が首相に返り咲くこととなるクーデターがまたまた発生。過去2度党首の座を奪回しようと試みたものの失敗をしていたラッド氏も、3度目の正直ということで見事に返り咲きをはたしました。

そもそも、このクーデターのきっかけはギラード政権では選挙を戦えないという判断を下す労働党員がここ最近一気に増えたことです。ここ最近の現元ギラード首相の支持率低下は最悪の状況が続いていました。すること、なすこといい評価を受けることなく、メディアでも酷評の連続。5月の予算案発表の際にも、「国民にとっては政権が変わるまでの辛抱」とも言われることもありました。

ここ最近の支持率は30%を割る自体となったこともあり、労働党の行く末を心配したパワーブローカーたちが一斉に動き始めたというわけです。

今回のキーマンは筆者が1月の大予想の中でクーデター後の総理大臣候補と名前を挙げていたビル・ショーテン議員。ショーテン議員を例えるならば、オーストラリアの小沢一郎でしょうか。彼こそが現在の労働党の基盤である労働組合の人物です。その彼が3年前にラッドからギラードへの指示転換を変えたために、ギラード首相が生まれました。そして、今回一番大きな要因となったものはショーテン議員一派(日本で言えば派閥、ショーテン派とでもいいましょう)が、ギラードを見切り、ラッドの支持にまわったことです。あるマスコミでは「首相を2度暗殺した男」と紹介されていました。

3年前、ラッド首相がクーデターにあい、首相の座を奪われたときに「顔なしのパワーブローカーたち(名前も顔も表にでてこない実権者たち)」が労働党を牛耳っていると皮肉にコメントをしていたのは、正にこのことです。

(右上に続く→)

今回の一連の「労働党党首交代の惨劇」は、この「顔なしのパワーブローカー」が3年前の仕打ちを水に流して、ラッド氏にギラード氏では選挙を戦えないから、労働党を今一度頼むと頭を下げるという形で始まったわけです。選挙戦を戦うことには非常に定評のあるラッド氏以外では、選挙戦での大敗はすでに決まっていたかと思われましたが、ラッド首相返り咲き以降、その大敗の予想があつという間に五分五分の勝負というところまで行っているようです。

とにかく、選挙戦まではラッド首相のやりたいように、思うようにやらせないといけなわけですから、労働党内でも今までのギラード政権の政策を変更したり、取りやめたりとラッド色がいろいろ出てくることに対する不満が生じているようです。もちろん、そうしたラッド氏のやりたい放題ぶりをあまりよく思っていないのが前述の「顔なしのパワーブローカー」たちです。もともと、彼らがギラード前首相を立てて進めてきたいくつかの政策であったわけで、それをラッド首相に代わった途端、すごい勢いで変えられるのですから、あまりいい気持ちではありません。このあたり、もともとラッド首相の党内の不人気の要因の一旦を見るようであり、労働党内の不安定ぶりを垣間見ることとなります。決して、労働党もラッド首相のもとで全員一致団結ということにはならないようです。

ラッド首相も、そうした事情を分かってか自身の人気をうまく利用して、今回は労働党内のとりまとめも行っているようです。日本の安倍首相も同じですが、2度目の返り咲き総理は前回の経験を生かした、うまい舵取りはできるのではないかと考えられます。そして、今の焦点はラッド首相が総選挙をいつに決めるかという点です。多くの専門家は、ラッド首相のボロがあまり出ないうち、できればまだラッド返り咲き人気の勢いを利用できる8月がというように見ているようですが、こればかりはラッド首相がどのように考えるか、これからはオーストラリア政治からは目が離せません。

## <今月の注目記事>

### 'Poor English saved Japan's bankers during global financial crisis' (英語のできない日本の銀行マンが金融危機から日本を救った!)

AFP 2013年6月28日付け

日本の銀行のお偉いさん達は、英語が分からないから、よく分からない金融商品を買わされなかった。だから。2008年の金融危機であまり日本の銀行は打撃を受けなかった。誰のお言葉であったかと思いきや、現財務大臣であり、副総理でもある麻生さんの一言でした。

先日東京で開催された会合において麻生さんが外国人記者に取材を受けていた中で一言だそうですが、一国の財務大臣がすごい発言をするという驚きの記事がオーストラリアにも伝えられえきました。

やあ、「麻生節健在」とはこのことです。相変わらずですねえ、麻生さん。

## <最近のつぶやき>

あるビジネス経営者の方は、従業員の給料と大家のモーゲージを払うために商売をしているようだとかぼしていた。確かに、よく見受けられる現状では事業主があまり報われない経済であることは否めない。そのため、そうした経営者の方たちからは、政権交代を待ち望むという声が多く聞かれる。

こうした一連の労働者過保護な政策は、間違いなく経済を鈍化させている。実際、負のスパイラルに入り込んでいるのが現状である。あるファーストフードレストランの経営者の方は、週末学生バイトの時給を倍にしなければならないので、バイトの雇用を止めオーナーの家族自らフロアで働きだしたという。

しかし、それも現政府は契約社員であってもその契約内容がフルタイムの従業員と同等の内容であれば、それは雇用とみなすという法律も制定しているので、契約社員であってもフルタイムと同じ福利厚生を与える必要が生じる。そのため、雇用主側どんどん追い込まれているのが現状である。

以前から、弊社が発行しているニュースレターでもお伝えしたように、オーストラリアの国際競争力は今の労働人口ではなかなか育たない。雇用主は、こうした労働コスト高の中でもやりくりを行い、従業員を雇用せず、契約社員として雇うなど日本と似た努力を続けている。

## <今月の名言>

『神が人間に一つの舌と二つの耳を授けしは、われわれがしゃべるより、他人から二倍よけいに聞くためなり』  
(エピクテトス)

数年前であろうか、某大手日系自動車会社オーストラリア工場の人事責任者の方が現地でのリストラを行う理由をオーストラリアの労働者文化が生産レベルを下げ、国際競争力を育てることができないとこちらのビジネス紙に語っていたことを思い出す。病気休暇も有給休暇のうちと、毎年消化すると。

オーストラリア移住者の最初の半年の失業率は国失業率と同レベル。しかし、それ以降の失業率は半分以下。それから、オーストラリアの国全体の就業率が65%に対し、海外移住者の就業率96%とここでも海外労働者に対する需要が高いことが見受けられる。

現在のオーストラリアの失業率が約5.2%。若くてスキルをもった海外からの労働者が多く、経済活動に参加するようになったため、全体的な失業率が低下しているという判断。

2013年度の移民受け入れ数は19000人。これは前年度より5000人多くなっている。

2012年度の移民統計にて、前回の統計で一位であった中国を抜いてインドが移民数のトップ(約2万9千人)、2位中国(2万5千人5百人)、3位イギリス(2万5千3百人)。この上位3カ国でオーストラリアへの移民数の43.1%となったようだ。(2012年度オーストラリア移民局統計より)

## <今月のうんちく>

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。  
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。  
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。  
習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。  
性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。  
(Twitterより)

## <今月のジョーク>

■あだ名は貴婦人  
学生時代の国語の時間に「困った様子」を「こまったがます」と読んで以来、わたしのあだ名は貴婦人がます。  
(ジョーク集より)

■沈没間際のタイタニック号  
救命ボートが足りないのに、船員は男性客に船に残るよう説得する。  
英国人に「君こそジェントルマン!!!」  
米国人に「君こそヒーローだ!!!」  
日本人に「皆さんそうしてらっしゃいます。」(ジョーク集より)



このかわら版、またはビザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に!

ゴールドコースト事務所 住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)  
E mail : [info@goaustralia-visa.com](mailto:info@goaustralia-visa.com) Website : [www.goaustralia-visa.com](http://www.goaustralia-visa.com)